



## 上田ブレーキ株式会社

URL:<http://www.uedabrake.co.jp>

### 1. 会社の沿革

1910年大阪市北区同心町にて上田佐一郎が銑鉄鑄造業の上田佐鑄造所を創業したのが当社のはじまりで、1923年に在阪私鉄殿に鑄鉄制輪子が採用され、以後、鉄道車両用の制輪子専門メーカーとなりました。

1955年に米国で合成制輪子が実用化され国内においても合成制輪子の研究開発が各社で開始され、弊社も1957年に合成（レジン）制輪子の研究開発を開始しました。

1964年国鉄殿と共同開発した増粘着研磨子が東海道新幹線に採用され、その後、車輪踏面に微小な粗さを形成して積極的な粘着向上を図ることができ、滑走傷などの抑止や走行騒音低減にも一定の効果が認められたため新幹線車両には無くてはならないものとなりました。

1997年岡山県瀬戸内市に岡山工場（合成制輪子工場）を新設して大阪本社工場との2工場体制となり、2001年に鑄鉄制輪子工場を岡山工場に併設し、大阪の鑄造工場を廃止しました。

2007年には岡山に新フルサイズブレーキテスター及び開発棟を新設し、技術開発部門の併設に伴い名称を岡山事業所としました。



岡山事業所

### 2. 事業内容

鉄道車両用鑄鉄制輪子、合成制輪子、増粘着研磨子、その他関連部品の製造販売  
事業所：本社工場（大阪市都島区）

岡山事業所（岡山県瀬戸内市）

東京支店（東京都台東区）

主な納入先：JR7社殿及び民鉄殿、車両メーカー殿、商社殿、等約160社

### 3. 最近の取り組み

近年、安全対策の一環としてホームドアの設置路線が徐々に増加しこれらの路線では定位置停止装置（TASC）が採用されています。TASC制御で制輪子に求められる性能は回生ブレーキ失効速度5Km/h以下から水や油が介在しても安定した摩擦性能が得られることであり、その停止精度は±30cmと厳しいものです。弊社のTASC装備車用増粘着制輪子は東京地下鉄殿、東急電鉄殿、名古屋臨海高速鉄道殿などの複数の路線で安定した摩擦性能を発揮し活躍しています。

鑄鉄制輪子においても定評のある粘着力を新車系の制動力分担形の制輪子として使用することにより、ローカル路線、短編成における車輪レール間の粘着力向上に効果が認められ、採用が拡大しています。

増粘着研磨子においては新幹線路線の拡大延伸に伴い益々需要が高まっており、高速化による車輪レール間の粘着力確保と車輪転動音抑止に重要な役割を担っております。

また、基礎研究として摩擦材の可能性を探るべく新素材の研究開発も精力的に取り組んでいます。

### 4. おわりに

創業から100有余年にわたり制輪子専門メーカーとして鑄鉄制輪子、合成制輪子、増粘着研磨子を事業の3本柱としてお客様のご指導、ご支援を戴きながら技術開発型企业として歩んでまいりました。引き続き安全、確実、安心を旨に常に社会に貢献できることを目指してまいります。